

中井だよい

Part 1

中井やまゆり園

ありがとうございました

生活支援部長 平野 雅己

お世話様でした。この3月31日をもって、神奈川県職を退職します。

思い起こせば、昭和(!)59年、施設勤務希望の通りに、ひばりが丘学園に着任。ひばりで9年、三浦しらとり園で8年。利用者さんへの支援、親御さんとのやりとり、一緒に働く職員との関係の持ち方、関係機関との調整等々、今仕事をしている上で基本となることを学ばせていただきました。特に、親御さんから伺った在宅時の大変さは、まだ大学出たての、世間知らずの自分には想像できないご苦勞をされてきたことを教えていただきました。

私たちは、今、支援方法を探るにあたって、目の前で見る利用者さんの行動だけで支援を組み立てるのではなく、その行動の背景に、どんな経験をしてきたのか、どんな思いをして、どんな感じ方をしてきたのか・・・もちろん、苦勞されてきた話だけではなく、一人ひとりがどんな楽しい・ワクワクした思い出を持っているのか・・・こんなエピソードを拾い集めて、より良い支援に結びつけるよう努めています。中井やまゆり園にあっても、皆さんの思いを、どうか若い職員たちにお聞かせください。よろしくお願いいたします。

そうそう、ひばり・しらとりと経験して、施設からしばらく離れていたのですが、当時の思い出は、実は鮮明に覚えていて、あの時のあの方はどうしているんだろうなあとふと思うことがありました。そんな中、中井やまゆり園に来て、ひばり・しらとりを利用されていた皆さんに再会することもできました。以前、担当をしていた利用者さんもいらっしゃいました。自分自身、鏡を見て、老けたなあと感じてしまいましたが（顔はもっとパンパンで、今のようにしぼんではいませんでした 笑）、皆さん一人ひとりが、自分同様、人生の荒波?を乗り越えて、今があるんだよなあ・・・思うと、妙にいとおいしく思えてしまいます。

時代は、新しい障害福祉を切り開こうとしています。今まで、良かれと思っていたことも、実は時代遅れになっていることもあるでしょう。どうか、中井やまゆり園が時代遅れの施設にならないよう、ご協力ください。・・・支離滅裂感もありますが・・・ありがとうございました。

中井だよい

Part 2

中井やまゆり園

みなさんのおかげです

生活第二課長 大矢 千秋

この度、3月末で退職することにいたしました。定年には1年早いのですが、これからの自分の生き方を考えたときに、「今、一回リセットしてみようか。」という思いが強くなりお暇することにしました。

退職を決めてから、これまでの自分の働きぶりを突然思い出すことが多くなりました。無心で夕食の支度をしているとき、夜布団に入ってホッとしているとき、フラッシュバックのように当時の自分が蘇り、思わず声が出ることもありました。ほとんどは失敗して青くなっている自分が出てきます。「こんな失敗も、あんな失敗もしてきたんだ。よくここまで働いてこれだな。」と今更ながらに反省しています。

3年前にこちらに配属された日のグラウンドの桜がとても見事だったことを今でも鮮明に覚えています。「この桜、こんなにきれいだったかな。」と20年前にいたところを思い出して観ていました。20年の間に桜は確かに成長、成熟していました。これだけの花を咲かせるほどの根を広く深く地に張り巡らせ、どんなときにも揺るぎなくここに居続けたんだな、と感慨深くなりました。

グラウンドの桜のように一年一年成長し成熟し続け、観る人を感動させることは、とてもできませんが、自分がここまで働き続けることができたのは、全ては皆さんのおかげです。

人の成長は自分の力だけでは叶いません。叱られたり、励まされたり、暖かく見守られたりと、人との関わりこそが栄養になって育つものと思います。大人になっても、年を重ねても育ち続けると思います。そういう皆さんとの関わり、助けがあって今の自分があることに感謝しています。「感謝」という二文字では言い尽くせないほどのありがたい気持ちでいっぱいです。

最後の職場が中井やまゆり園でよかったと強く思います。

利用者の皆さん、ご家族・後見人の皆さん、職員の皆さん、

たくさんのご指導と励ましをいただき、本当にありがとうございました。

中井やまゆり園はコロナに負けない強さがあると信じています。

これからのますますのご活躍をお祈りしています。